

一般質問

地球温暖化対策について

問① 工藤 孝一 議員



第3期地球温暖化対策実行計画により地球温暖化対策を行っておりますが、更なる取り組みの強化について伺います。

答① 久保 弘志 町長



実行計画（事務・事業編）の基本方針である職員の省エネ行動の推進に基づき、適切な冷暖房の管理・ナチュラルビズを導入。また、電気・燃料使用量削減を目的と

した街路灯のLED化、公用車更新時のハイブリットカー選定、さらには、二酸化炭素吸収源となる森林資源の適正な管理を推進しています。建設予定の防災拠点型複合庁舎などには温泉熱の活用・省エネルギー機器の導入を進めています。

各自自治体ではゼロカーボンシティ宣言が拡がりをみせており、本町においても「小清水町地球温暖化計画（区域施策編）」の策定を目指すとともに、ゼロカーボン宣言の表明の準備を進めているところです。

問② 工藤 孝一 議員  
次の3点について導入すべきと考えますが、所見を伺います。  
1 点目に、CO2排出量が多いとされる小学校・中学校・愛寿苑・高齢者生活福祉センターへの太陽光発電と蓄電施設の設置について。  
2 点目に、省エネ対策をとる個人住宅や商工業者に対する補助制度導入について。

答② 久保 弘志 町長

3 点目に、再生可能エネルギー施設設置による乱開発が問題視されていることから、再生可能エネルギー条例を制定することについて。

1 点目の各施設については、区域施策編の計画策定や、ゼロカーボンシティ宣言を行うことにより得られる国の助成制度などを活用しながら、再生可能エネルギーを導入しつつ脱炭素社会に貢献できるよう検討していく考えです。  
2 点目の補助制度の導入ですが、本町の太陽光発電の普及率は全道的にみてもかなり高いと認識しておりますが、計画策定において必要であれば国の補助制度などを活用して支援制度について検討したいと考えます。  
3 点目の再生可能エネルギー条例ですが、CO2吸収源である森林は守るべきであり、しっかり管理する考えで、太陽光パ

問① 更科 浩司 議員



小清水町のSDGsの取り組みについて

少子高齢化や過疎化などの課題がある中でSDGsの目標達成に向けた本町の取り組みをお聞きします。

答① 久保 弘志 町長

「第6次小清水町総合計画」などの諸計画においてSDGsの目標に通じる各施策を推進しており、防災拠点型複合庁舎では、温泉熱を熱源として活用することによりCO2の排出を抑制し、低炭素社会の実現に向けた整備を進めています。また、ゴミのリサイクル推進や良質な飲料水の確保、循環型農業の取り組みは、まさにSDGsの目標達成に寄与するものと考えま

ネル設置に対し制限が必要と判断したときには検討したいと考えます。

社協配食サービス事業について

問① 工藤 孝一 議員

現在行っている配食サービスは開始から25年が経過しており、利用者数の減少がみられることから、配食事業者の複数化や、利用回数の増加など事業の見直しについて伺います。

答① 久保 弘志 町長

この配食サービスは見守りが必要な高齢者等に対し安否確認も兼ねて実施しており、その制度の周知と利用ニーズの把握に社会福祉協議会とともに取り組んでいます。  
高齢者の見守りを兼ねる本事業に理解と熱意を示していただいた町内飲食店もありますことから、食事の選択肢の幅を広げ、

問③ 更科 浩司 議員

魅力ある商店街づくりのひとこととして、お店が集まったマルシェの様な空間を町が造る考えはありませんか。

答③ 久保 弘志 町長



町が直接事業主体となって行う考えは持っておりませんが、町内の商工業者の皆さんなどから相談があった場合には町も一緒に取り組む考えは持っておりますのでご理解願います。

問② 工藤 孝一 議員

利用回数の見直しを検討しております。

問② 工藤 孝一 議員

現在宅配料は事業者が賄っておりますが、原油高騰の影響もあることから、町が事業負担として宅配料について検討する必要があると考えます。また、利用の負担軽減からも補助率を上げる検討をすべきと考えますが、所見を伺います。

答② 久保 弘志 町長

宅配料については企業努力をいただいていると認識しており、そこが限界との話があれば料金に乗せを行うことはやむを得ないと考えております。また、補助率については、見守りを兼ねる事業です。受益を受ける方の負担については5割程度が望ましいと判断しておりますのでご理解願います。

答② 久保 弘志 町長

防災拠点型複合庁舎の整備を機に、中心市街地にもう一度賑わいをもたらしたいと考えており、町内での消費が増えるような魅力ある店づくりについて商工会など関係機関と常に協議しながら、町としても努力していく考えです。